

第一日曜日
教会学校 9:00～
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～

その他の日曜日
教会学校 9:00～
聖書を読む会 9:00～
主日礼拝 10:30～

日本基督教団 麻布南部坂教会月報

2017 (平成29年) 6. 11

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

聖書と祈り会
毎週水曜日 10:30～
成人会
第3日曜日 礼拝後
婦人会
第4日曜日 礼拝後
教会附属 南部坂幼稚園

「主が来られるときまで忍耐しなさい」

(ヤコブの手紙「十五」)

牧師 松谷 祐二

ヤコブの手紙 第五章七節～一一節

兄弟たち、主が来られるときまで忍耐しなさい。農夫は、秋の雨と春の雨が降るまで忍耐しながら、大地の尊い実りを待つのです。あなたがたも忍耐しなさい。心を固く保ちなさい。主が来られる時が迫っているからです。兄弟たち、裁きを受けないうようにするために、互いに不平を言わぬことです。裁く方が戸口に立っておられます。兄弟たち、主の名によって語った預言者たちを、辛抱と忍耐の模範としなさい。忍耐した人たちは幸せだと、わたしたちは思います。あなたがたは、ヨブの忍耐について聞き、主が最後にどのようなようにくださったかを知っています。主は慈しみ深く、憐れみに満ちた方だからです。

ヨブ記 第三章一～六節、三五～四〇節

わたしは自分の目と契約を結んでいるのに、どうしておとめ目注いだりしようか。上から神がかくださる分は何か。高きにいます全能者のお与えになるものは何か。不正を行う者には災いを。悪を行う者には外敵をお与えになるではないか。神はわたしの道を見張り、わたしの歩みをすべて数えておられるではないか。わたしがむなしいものと共に歩き、この足が欺きの道を急いだことは、決してない。もしあるというなら正義を秤として量ってもらいたい。神にわたしの潔白を知っていたいただきたい。：

どうか、わたしの言うことを聞いてください。見よ、わたしはここに署名する。全能者よ、答えてください。わたしと争う者が書いた告訴状をわたしはしかと肩に担い、冠のようにして頭に結び付けよう。わたしの歩みの一步一步を彼に示し、君主のように彼と対決しよう。わたしの畑がわたしに対して叫び声をあげ、その畝が泣きわたしが金を払わずに収穫を奪って食べ、持ち主を死に至らしめたことは、決してない。もしあるというなら

ら小麦の代わりに茨が生え、大麦の代わりに雑草が生えてもよい。

ヨブは語り尽くした。(新共同訳聖書)

ヤコブの手紙は、地中海世界に広がっていった、キリスト教会の仲間たちに、教会から教会へと回覧されて読まれることを想定して書かれました。諸教会の置かれた状況は一樣ではなかったでしょう。信仰のゆえに政治的、社会的、物理的に迫害された教会。経済的な困窮に悩んだ教会。逆に、富裕層の信者が多く、貧しい信者が肩身の狭い思いをしていた教会。内部での不和、悪口の言い合い、「神からの知恵を得た」とうぬぼれる教師たちによる党派争いで混乱した教会…。

まさに内憂外患の状況の中で、キリスト者たちはどんな思いを抱いていたのでしょうか。不平不満、自暴自棄、意気阻喪、怨念復讐…つらいことばかりで、信仰生活なども嫌だ、という信者たちも少なくなかったのではないのでしょうか(今のわたしたちの教会は…どうでしょうか)。そのためでしょう、「忍耐しなさい」という勧めは、手紙の最初のほうにも書かれていました。

わたしの兄弟たち、いろいろな試練に出会うときは、この上ない喜びと思いなさい。信仰が試されることで忍耐が生じると、あなたがたは知っています。あくまでも忍耐しなさい。そうすれば、完全に申し分なく、何一つ欠けたところのない人になります。(一章二～四節)

試練を耐え忍ぶ人は幸いです。その人は適格者と認められ、神を愛する人々に約束された命の冠をいただくからです。(一章二節)

手紙も終わりに近づいてきたところで、ヤコブはもう一度、キリスト者の仲間たちに「忍耐」を勧めます。「主が来られるときまで忍耐しなさい」。この「主」はイエス・キリストのことです。十字架と復活の後、今や天に上げられて統治しておられるはずの主イエスです。「秋の雨と春の雨」を待

つ農夫のように――あちらの気候では、四月頃の雨季が過ぎると、十～十一月頃まで、ほとんど雨が降らないと言います。「秋の雨」が降ってくれば、果実の収穫は望めません。農夫たちは切実な思いで雨を待つ。だからこそ、降った時の喜びも大きい。あなたがたもそのように、主を待ちながら忍耐しなさい。

この勧めの強調点は、「歴史の終わり、終末に主イエスが来られるまでずっと待ちなさい」ということよりも、「主が正しくお裁きくださる時が確実に(遅かれ早かれ)来ると信じて、忍耐して今を乗り越えなさい」ということにあると思われれます。手紙は「主が来られる時が迫っている」と言い、「裁く方「主イエス」が戸口に立っておられます」と言うからです。遠い将来にはきつと解決されると期待するからではなく、主イエスは今、近くにいますし、見ておられ、必ず正しくお裁きになると信じるから、わたしたちは今、忍耐する力を与えられるのです。今、忍耐しないで、自暴自棄になって不平を言い合ったり、「やられたらやり返す」という復讐に心を奪われて過ごしているとなれば、すぐ近くにいます主イエスに、かえってわたしたち自身のほうがお咎めを受け、厳しく裁かれることになってしまいかもしれません。

旧約聖書の信仰者たちの例も、忍耐の意義を教えてくれています。預言者たちは主(こちらは父なる神のことです)の名によって語り、民の墮落と背信を責めたがゆえに迫害されましたが、その預言者たちこそ、神の御心にかなっていました。

サタンの悪意から、理由もなく多くの財産や肉親を一度に奪われ、自身も悲惨な病に苦しめられたヨブは、黙って忍耐したというよりも、神に(人間にはなく!)激しく訴え続けることで忍耐した人です。友人たちに何を言われても、ヨブは「神は正しく裁いてくださるべきではないか。神に答えてほしいのだ!」と食い下がりました。そういう形で最後まで忍耐したヨブに、神はついに答え、以前にもまして祝福されました。

わたしたちも胸に刻みましよう。「あなたがたも忍耐しなさい。心を固く保ちなさい。」「主は慈しみ深く、憐れみに満ちた方だからです。」

教会のこれからを考える会、から

佐藤 忠 昭

まず 議事録を

日時 六月四日十三時四十五分階下ホール
開会祈祷 木村信太郎兄
司会 柴田真由子姉

発題① 教会学校の現状と問題点

北川恵子姉

教師が絶対不足しているなかで、子供たちが飽きないようにいろいろ工夫している。小学科で両親にプレゼントを用意したり清掃作業とか手話の本でまなぶなど教会学校に来ることが楽しいと思えることが将来に繋がるので大切です。

何かできることがあれば提案して欲しい。まず人手が足りないので受付などを助けてもらえないかとの提案があった。決められた計画だと難しいと意見があり、ボランテニア的に計画を入れるようにしたらいい



子供も一緒に考えました

との提案があった。

発題② 現状の問題点と さあどうしたら良いか。 宍戸健太兄

少子高齢化による教会員数の減少の現実をどうするか。ひとつは会員数を減らさないようにする。若年層を会計とか清掃係とか育てるといふ方向で有効活用すべきだ。役員候補をそだてる為にもなる。

未陪餐会員の調査が必要とおもわれる。初めて来た人が継続して来れる対策を講じることが重要だ。牧師だけが声を掛けるのではなく皆が声を掛けるべきだ。

現状では牧師がハガキを出しているが会員皆でやるようにするべきだ。高齢者が声をかけるのも歓迎される。その他にも欠席者への連絡、誕生日カードの送付、寄せ書きを送ること等接触を保つようにすることが必要だ、そのほかに看板に関して時間を表示する、掛ける位置を工夫する等の提案があり、これらのことを新しい人への対応を含め具体的に進める組織をつくることを役員会で検討すべきとの提起があった。

閉会祈祷 松谷牧師
十五時 終了

以上が会議の議事録だが 今回の会は出席者も多く しかも非常に活発な議論が展開された。本当に教会をより良くしたいという関心の高さ 意気込みが強く会に漲っていた。

特に若い世代の教会を愛する熱意が皆の気持ちを動かして単に議論するための会ではなく具体的に対策が提起されたことは素晴らしい。

ある牧師が書いた本のなかに
主の命令は愛である という言葉があり
主が命じられたのに 自分にはまだまだ信仰は浅くとても無理です。出来ません、と断るならばそれは傲慢である 主はそんな

ことは充分にご存じで命令している これを愛の命令と言う
主が手をさし伸ばし後押しをして下さることを信じて会員ひとりひとりが自分でできることを実行し、ますます主に喜ばれる教会 教会学校 幼稚園にしていきたいと思えます。

報 告

* 教会員の木村瑠璃子姉が、五月七日(日)夜、天に召されました。九日(火)午後五時から、仙台の葬儀社の小ホールにて、身内の方々を中心とした前夜式が執り行われ、松谷牧師が司式をいたしました。未陪餐会員の木村敦弘さんをはじめ、ご遺族のためにお祈りください。

* 「オリーブの箱」の投書を受けて役員会で協議の結果、今年度から「ペンテコステ献金」を新たに募ることといたしました。目標額は特に定めません。聖霊の恵みへの感謝を込めてお献げください。
* 五月三十日(火)、富士見町教会において、第七十六回東京教区総会が行われ、当教会から、松谷牧師が出席しました。三役からは岸俊彦議長、渡邊義彦副議長、伊藤英志書記が再選されました。

《各部報告 五月度》

成人会

日時 五月二十一日十三時三十分〜十五時
出席者 九名
聖書箇所 エレミヤ書 七、八、九、十章
・北の国から声がする。見よ、知らせが来る。北の国から大いなる地響きが聞こえる。
それはユダの町々を荒廃させ山犬の住みかとする。(十章 一二節)とあってエレミヤは聴覚的・視覚的体験に訴えて、北から切迫する戦争によってもたらされ

る破局の確信を述べています。ヤハウエがその決断をされたからには、もはや何事も変更することは不可能です。民の罪とその刑罰の関係は基本的には律法の中に示されていますが、彼らの兄弟国北イスラエルの滅亡、その首都サマリアの陥落についての記憶、そして預言者たちの警告の言葉が、その審きを避けるための悔い改めへの道を示していました。民は今こそこの預言者に聞いて、自らの信仰の歩むべき姿を知り、神の前に悔い改めなければならなかったのです。

婦人会

日時 五月二十八日 主日礼拝後
場所 会堂会議室
出席者 八名
開会祈祷 納正子姉
閉会祈祷 高橋優美子神学生
内容
一、聖書研究 「コヘレトの言葉」第二章、
第三章 全員で輪読した後、松谷牧師の解説を聞いた。

第二章 一章と真逆の事をやってみたが、快樂もむなし。益になることは何も無い。結局は死ぬのだ。作者コヘレトはあれこれ考えて途中で時々結論めいたことを言う。「人間にとって最も良いのは飲み食いしと労苦で魂を満足させるのが一番だ」と思ってみる。しかし、これは神からいただいた物であり、やはり虚しい。
第三章 何事にも、時があり、神はすべてを時宜に敵うように計らわれる。時は神が決めること、人間にはわからない。人間には何も許されていない。正義の人も悪人も最後は神に裁かれる。人間も動物もおなじこと。すべては塵に返る。むなし。先のことは人間には分りようがない。途中の結論として、「とりあえず、自分の業によって楽しみを得ることが最も幸福なことだと悟った。」とコヘレトは書く。(以上、納正子姉による発表)